

● 最優秀賞

言葉に関する発表会の指導 ——3年間の学習のまとめとして——

東京都羽村市立羽村第一中学校 みずの みすず 水野美鈴

1 はじめに

平成10年入学の生徒たちは、1年生から3年生までの3年間、私が国語の授業を担当した。この生徒たちは、1年生の時から多くの発表学習を経験している。大がかりな発表学習だけをあげても1年次のアクロスティックの自己紹介、詩の朗読発表会、説得劇の発表会、2年次の「平家物語」の発表会などである（資料1）。また、国語科の授業以外でも発表の機会がもてた。職場訪問の報告会、音楽科や社会科の研究発表などに取り組んだ。

そこで、3年間の学習のまとめとして、今まで学んできた成果を生かせるような発表の機会をもたせたいと考えた。テーマは、「言葉」。国語科の最後の発表なので言葉について、言葉の魅力、働き、不思議さ、問題点などさまざまな角度から考えさせたい。単元名は、「言葉・ことば・コトバ」とした。この単元名には、漢字、漢語、和語、古語、外来語、オノマトペ、幼児語…など色々な言葉に興味を持ち、課題に取り組んでほしいという願いを込めた。以下はその発表会指導のまとめである。

「言葉・ことば・コトバ」の学習につながる3年間の学習をふりかえろう（資料1）

●この表を見るための説明

右端の四マスは、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「言語事項」に分けてあります。その学習をすることによって力がつくと思われる領域に「＊」がついています。また、「言語事項」は、つけたい能力をことばで書いてあります。

学年	月	学習した項目	学 習 内 容・目 標	話す 聞く	書く	読む	言語 事項
第一学年	4月	①アクロスティックで自己紹介（発表会）	・手引きをもとに書く材料を集める。 ・聞き手にわかりやすい自己紹介になるように文章を工夫する。 ・効果的なスピーチの方法を知る。 ・お互いの人柄を知り、理解を深める。	＊	＊		音声 書写
	5月	②わかりやすく説明する（サイコロ、道順、留守番電話）	・わかりやすく説明する方法を知る。（まず、全体を大づかみでできることがらを！） ・読み手にわかりやすい説明文を書く。	＊	＊		文章 音声

	6月	③「野原うた」を工夫して音読する(発表会)	・詩の雰囲気を生かして、工夫して音読することにより、自分たちがつかんだイメージを聞き手に伝える。	*		*	音声 語句 語彙
	7月	④比喩の種類を理解し、比喩を使った文章を書く	・直喩、隠喩、擬声語、擬態語、擬人法などについて理解し、それらをたくさん使って文章を書く。(学芸発表会で展示)		*	*	語句 語彙
	9月	⑤「動物比べ」の討論をする	・どの動物が賢いか討論をし、論理的に説明する力を養う。(主張、理由、主張を支える事例、材料、証拠)	*			話 文章
	10月	⑥「説得」の方法を学び、劇を作って演じる(発表会)	・相手を説得する方法を理解し、実生活の上でも使えるようにする。 ・効果的な声の出し方や、発表方法について知る。 ・級友の劇を判定し、優れた発表について理解を深める。	*	*		音声 話・ 文章 言語 生活
	2月	⑦漢字の成り立ちを知る	象形、指事、会意、形声文字や国字などについてゲーム形式で理解し、漢字がどのようにしてできたかを知る。				漢字
第二学年	4月	⑧「漢字テストの結果に思う」という題で意見文を書く	・意見文を書く時、どんな要素が必要かを理解する。 ・漢字テストの結果のグラフを見て、主張、理由、主張を支える事例、材料、証拠などを書き、意見文にまとめる。		*		文章 文
	6月	⑨「植物の姿勢と鮮度」を読み、説明文の構成を考える	・段落ごとにバラバラに切断された説明文を読み、論がどのように展開しているか考える。 ・なぜこのように論が展開していると思うかを論理的に説明する。	*	*	*	話 文章 文 音声
	10・11月	⑩「平家物語」を読み、好みの段を、好みの音声表現で発表する(発表会)	・「平家物語」の文学史上の意義を知る。 ・古文の特徴、「平家物語」の文体の特徴を理解する。 ・「平家物語」の冒頭文を暗唱する。 ・好みの段を見つけ、効果的な発表方法を考える。(紙芝居、人形劇、劇、群読、架空インタビュー、放送劇、暗唱など) ・音声表現で発表することをとおして古典に親しむ。 ・図書資料の集め方を知る。	*	*	*	音声 語句 語彙 話・ 文章 言語 生活
	2月	⑪方言と標準語について理解を深める	・「方言の味わい」(NHKビデオ)を見て方言に関心・興味を持つ。 ・「方言と標準語」を読み、それぞれの良さをまとめる。		*	*	言語 生活

	3月	⑫「走れメロス」を読み、ビデオと比較し、討論する	・小説「走れメロス」を読み、舞台、心情、情景など、内容を理解する。 ・ビデオ「走れメロス」を見て内容をつかむ。 ・小説とビデオの描かれ方の違いや、工夫を考え、それぞれの長所・短所を書く。 ・小説、ビデオのどちらの描き方が優れているかディベートをし、論理的に意見を述べる力を養う。	*	*	*	文章 文・話 語句 語彙 音声
第三学年	4月	⑬敬語について理解し、敬語をたくさん使った作品を作る	・敬語の種類を理解する。 ・日常、どんな場面でどのような敬語が使われているか考える。 ・4種類の敬語をなるべくたくさん使った文章を考え、画用紙1枚に自由な構成で書く。作品は廊下掲示。		*		言語 生活
	10・11月	⑭言葉の魅力、不思議、働きなどについて考え、調べて発表する。	・私たちがとりまく言葉のおもしろさ、特徴、工夫、問題点などに気づく。 ・課題を持ち、調べ、まとめる。 ・資料の集め方を知る。(図書館、新聞、インターネットなど) ・音声表現によって、聞き手にわかりやすいように効果的に発表する。	*	*	*	音声 語句 語彙 話 文章 言語 生活

学年として、学級活動や、進路の学習で取り組んだ学習
(授業者が計画、全体集会などで指導)

1年生 7月	インタビューをする方法を知る	*「身近かな人に聞く職業調べ」(進路の学習) ・話し手から話を引き出すインタビューの方法を知る。 ・インタビューで聞き取った話をB4の紙1枚に自由に構成を考え、わかりやすくまとめる。	*	*		音声 話 文章 文
2年生 10月	職場訪問の報告・発表をする	*体験学習で職場訪問を行った際の報告、発表(進路の学習) ・聞き手が興味を持つ報告をするにはどうしたらよいか考える。 ・模造紙1枚に写真、パンフレットなども使いながら訪問先の様子がわかるようにまとめる。 ・劇、実物提示、インタビュー、ビデオ、紙芝居などにより報告発表会をする。	*	*		話・文 文章

●資料1／3年間の学習

2 授業計画

- (1) 対象生徒…羽村市立羽村第一中学校 3 年生 4 クラス 153 名
- (2) 時期…平成12年10月～11月 (13時間扱い)
- (3) 単元名…言葉・ことば・コトバ
- (4) 指導の目標

- ①何気なく使っている言葉の魅力、働き、不思議さ、問題点などに気づかせる。
- ②言葉について調べたり、発表したり、レポートにまとめたりする中で、言葉に対する認識を深め、優れた言葉の使い手になることを目指させる。

(5) 指導計画

【第1時】

- ①新聞に載っていた若者言葉についてのクイズを出し、言葉に興味を持たせる。
- ②インターネットで新聞記事を検索することができることを知らせる。
- ③プリントを配布して、これからの学習に関するガイダンスを行う。特に、言葉に関する研究のテーマにはどのようなものがあるか幅広く考えられるように配慮する。

【第2時】

清涼飲料水の広告を5枚掲示する。テレビコマーシャルなども含めて、どのような言葉、映像、効果音などの工夫が『買いたい。』という気持ちを起こさせるのかを話し合わせる。

【第3・4時】

- ①類義語についての学習材「なつかしいと恋しい」を読み、プリントで内容理解を図る。
- ②「上がる と のぼる」の違いを、授業者が調査し、分類した表を掲示し、説明する。
類義語の意味の違いをどのように調べ、まとめたらわかりやすいか理解させる。

【第5時】

- ①オノマトペに興味を持たせるために、宮沢賢治の「風の又三郎」の冒頭に使われているオノマトペを考えさせる。また、授業者

が音読する中でオノマトペが使われている箇所に来たらすかさず机をたたかせる。ゲーム感覚で授業を行い、興味づけを図る。

- ②マンガにおけるオノマトペの効果や公用文にオノマトペをつけないわけを考えさせ、オノマトペの働きに気づかせる。

【第6時】

- ①まちがわれやすいことわざの意味を、発表させてから正解を告げ、興味づけをはかる。
- ②発表会での効果的な発表方法や注意事項について説明する。
- ③グループ長にくじを引かせ、発表の順番とおおよその発表日を決める。
- ④発表連絡票を提出させる。また、「『課題にチャレンジ』の足跡」の書き方を説明し、自分の研究の歩みをふりかえるためにも毎日書くように指示する。

【第7・8・9時】

図書室で、個人、グループで調べたりまとめたりさせる。(図書室の本、羽村市立図書館から借りた本、授業者の手持ちの本、資料などは自由に使わせる。)

(この後10日間、準備期間をとる。授業では文法の復習をする。放課後5時まで、教室、図書室は、居残り届けを出せば使えるようにする。授業者は、教室や図書室を回り、アドバイスをする。)

【第10・11・12時】

順番に従って成果を発表させる。ビデオを使って発表する時は、場所を視聴覚室に移す。発表を聞きながら「よかったよカード」を書き、授業後、交換し、相互評価、自己評価に反映させる。もらったカードは、「発表を終えて」のプリントに貼りつけて保管させる。

【第13時】

- ①単元のまとめとして「発表会を終えて」を書き、学習全体の自己評価をさせる。
- ②レポートの書き方を説明しファックス原稿用紙2枚を配布する。レポートは家庭学習。

3 指導をする上で工夫した点

①課題，メンバー，発表方法は自由とした。色々な課題に目を開かせるために，授業者作成の「課題のヒント集」とともに『日本語解釈活用事典』（ぎょうせい発行）の目次を切り張りし，3枚配布した。メンバーも，個人でやってもグループでやってもよいことにした。ただし，一人一人が活躍できる時間を発表の中で最低1分間は作るように指導した。発表方法も音声による発表ならどんな方法でもよいことにした。これは色々制約をしてしまうより自由の部分を多くした方が生徒の個性や工夫が発揮されると考えるからである。

②第1時～第5時の間は，授業者自身が言葉に関して興味をもった内容を実際に調べ，まとめ，聞き手が興味を引くような方法で授業をした（若者言葉をクイズで。広告の工夫を掲示と，聞き手を巻き込んだ話し合いで。類義語の違いを表作りで。オノマトペの効果ゲームで。ことわざをプリントとクイズで）。これによって（ア），言葉に興味・関心を持たせること（イ），資料をどのように集め，調べ，まとめるかを知らせること，（ウ），どのような発表をすると聞き手は興味をもって聞かかなどに気づかせることをねらった。

③資料は，可能なかぎり用意した。（ア），本校図書室の言語関係の本82冊，百科事典などの事典類，（イ），羽村市立図書館から借りた本31冊，授業者手持ちの本26冊。（ウ），立川中央図書館のインターネットで検索し，プリントアウトした朝日新聞の言葉関係記事18種，（エ），雑誌の文章11種などを準備し，図書室の棚に並べ，自由に見られるようにした。

④生徒が主体的に課題を解決するためには，（ア），課題を明確に意識すること，（イ），情報，資料が適切か判断できる力を持つこと，（ウ），時間に関する意識をしっかりと持ち，準備や発表に必要な時間配分を考える力を持つ

ことなどの能力が必要だと考える。そのため「発表連絡票」（資料2）と「課題にチャレンジ」の足跡」（資料3）の二つを書かせ，自分の課題を自覚し，課題追求の過程を自分で見つめられるようにした。

⑤「発表を見ながら，聞き手が『楽しい，おもしろい，初めて知った，見た甲斐があった，興味がわいた，よくわかった。』」とってくれるような工夫をしよう。」と呼びかけた。今までの3年間で経験した発表学習で，生徒たちは，紙芝居，劇，実物提示，架空インタビュー，人形劇，模造紙，画用紙の掲示などを経験しているので，どんな工夫が自分たちの発表を引き立てるか考えさせた。

⑥自分の意見と資料で調べたことをはっきり区別させるために，発表の後おこなうスピーチの中で，使用した資料については報告させた。また，レポートにも書かせた。

⑦学習を振り返り，自己評価，相互評価する力を養うため，「よかったよカード」の交換や「発表会を終えて」のプリントのまとめ，レポートの最後に感想を書くことをさせた。

単元「言葉・ことば・コトバ」発表連絡票（組番氏名 A子）

- 1 私はこのテーマで発表をします。
(化粧品品の広告にはなぜ外来語がたくさん使われるのか)
- 2 なぜこのテーマを選んだか、その理由は、(私たち女子には化粧品は興味があるし、外来語が使われるとなぜ売れるのかを調べてみたいと思ったからです。)
- 3 こんな資料が必要だと思われます。(化粧品のパンフレット、チラシ)
- 4 メンバーと班長名を報告します。
班長(A子) メンバー(A子, B子, C子, D子)
- 5 このような方法で発表しようと考えています。
【ニュースショー形式(模造紙による展示, 聞き手への質問, クイズもやる。)】
- 6 図書室での三時間の準備と、放課後の準備の計画は次のように考えています。
1時間目(化粧品のパンフレット, チラシをみんなで集めて持ってきて見る。)
2時間目(①友達に外来語の化粧品名の印象をインタビューする。②辞書で外来語の化粧品名の意味調べをする。)
3時間目(外来語の化粧品名はどんな効果があるか話し合う。)
放課後(シナリオを書く。模造紙を書く。質問, クイズを考える。発表の練習。)
- 7 この研究により次のことがらが明らかになるとと思われます。
(和語と外来語から受ける印象の違い。このごろなぜ外来語の商品が多いのか。)

●資料2/発表連絡票

日	今日の記録(進み具合, 悩み, 迷い, うまくいったことなど)	使用資料	次の予定
10月13日	図書室で持ってきたパンフレットやチラシを見た。色々な薬局やデパートを手分けして集めたので, 19枚あった。やっぱり圧倒的に外来語, 特に英語の化粧品名が多かった。化粧品の説明の文章にも外来語がいっぱい使われていて驚いた。	化粧品のパンフレット, チラシ	辞書で商品名の意味を調べる。
10月25日	放課後残って模造紙を書いた。円グラフで外来語が使われている化粧品名の割合を書いた。9割以上が外来語だった。日本語の商品は「肌水」「米ぬか美人」などとても少ない。やっぱり外来語を使った方が「きれいになれそう。」「効果がありそう。」という感じになる。図書室にいた友達に「ロングラストシャインリップスティック」と聞いて何を思うか聞いた。「キラキラ光っていそう。」「使い心地がよさそう。」「高級そう。」などの意見が多かった。これも発表しようと思う。	化粧品のパンフレット, チラシ 英和辞典 和英辞典 国語辞典	ニュースショーのようにして発表するためのシナリオを書く。
11月1日	今日は発表をした。とってもドキドキした。でも, 2日間かけて4人で練習したので, きっとうまくできると自分に言い聞かせた。今までで一番よくできたと思う。4人とも声も大きく出せたし, 模造紙をはったりするのまごつかないでできた。友達からも先生からもほめられた。「よかったよカード」の一言感想は「掲示物がきれいでわかりやすい。」「よく工夫されていておもしろかった。」などと書かれていた。先生からは, 「ニュースショーというアイディアが新鮮だった。模造紙の発表だけでなく, インタビューやクイズを取り入れたのが効果的		レポートをまとめる。(2週間後締め切り)

11
月
1
日

だった。掲示物も見やすく工夫されていた。」と言われた。
初めてこの発表の話を先生から聞いた時は、本当にイヤで逃げ出したい気持ちだった。でも、発表を終えた今は、ことばについてふだんあまり考えたことがなかったので、考える時間ができてよかったと思う。このテーマについては、専門の本がなかったので、全部自分たちで調べた。班の人たちと楽しく調べられたし、発表も協力できていい経験になった。

●資料3／“課題にチャレンジ”の足跡

4 実践の成果

①生徒は言葉に関する幅広いテーマを取り上げ、言葉に興味・関心を高めることができた。テーマとしては、【方言（資料4）、若者言葉（資料5）、死語（資料6）、敬語、広告の言葉の工夫、点字（資料7）、手話（資料8）、音楽用語（資料9）、子供の言葉の成長、名字、地図・信号・マークなどの記号が表す意味、名前の由来やつけられ方、校歌に多く使われる言葉、マンガにおけるオノマトペの効果、ことわざ、類義語の意味の違い、慣用句、外来語、今に伝わる名言、漢字・ひらがな・かたかなの成り立ち、〇〇先生の叱り方はなぜ説得力があるか、愛の告白の言葉】などがあつた。国語科を越えて福祉、音楽科、幼児教育、社会科などにも関連するものがあり、総合的な学習に近い発表もあった。

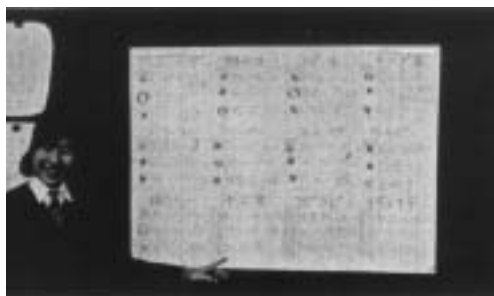
②3年間のまとめにふさわしい発表が多かった。場数を踏んできたばかりで、発表に工夫が見られ、聞き手を引きつけることができた【クイズ（資料5）、劇（資料4）、人形劇（資料6）、模造紙や画用紙の掲示（資料9）、紙芝居、ビデオ発表、ニュースショー、点字板などの実物提示（資料7）、手話、点字の実演（資料8・9）など】。準備や、発表の本番に臨む姿勢も意欲的だった。3年生の2学期、期末試験前の精神的にもかなりきつい時期だったが、準備、発表とも和気あいあいとした雰囲気の中でできた。

③課題を追求しようという意識は高かった。

休日に授業者の自宅にまで電話してきて課題について相談する生徒もいた。時間に対する意識も3年間の中で高まった。準備が発表当日に間に合わず、発表できなかったという生徒はいなかった。



●資料4／津軽方言を劇化して発表
「どさ？」（どちらへ？）
「ゆさ。」（銭湯へ。）



●資料5／若者言葉を三択のクイズ形式で発表



●資料6／人形劇のセリフ中に死語をまじえ、クイズ形式で発表



●資料7／選挙管理委員会から点字版を12台お借りしてきて、級友に配り、体験させながらの発表



●資料8／
「小さな世界」
を歌いながら、
手話で言葉を表
現しての発表



●資料9／音楽用語の発表。「atempo」の語源と、もともとの意味を掲示とクイズで発表

5 生徒の学習の歩み

「化粧品の広告にはなぜ外来語がたくさん使われるのか」について発表したA子を抽出し、「発表連絡票」、「課題にチャレンジ」の足跡、レポートの一部を記述する。

(1) 発表連絡票（資料2）

(2) 「課題にチャレンジ」の足跡の一部

（15日間の記録のうちの3日分）（資料3）

(3) レポートに書かれた「まとめの感想」の一部

今回、私たちは、化粧品の外来語を調べましたが、今の世の中、私たちの身の回りには外来語があふれています。小さな物から大きな物まで、例えば文房具などから車の名前まであらゆるところに外来語が使われていて、私たちの生活に欠かせないものになっています。外来語を使えばなんでも「かわいい」「かっこいい」と思わせることができるからだと思います。・・・でも、このまま日本で外来語があふれたらどうなるでしょうか。もしかしたら外来語づくしの国になってしまうかもしれません。だから、私たちはこの発表を通して、「外来語の良さをわかりつつ、日本らしい、日本の文化も大切にしていこうね。」ということを考えました。

6 今後の課題

①情報、資料を読むという点に課題が残る。自分が得ている情報は正しいのか、もっと適切な情報はないのか、自分は正しく資料を読めているのか、多くの情報の中で課題解決に必要な情報は何かなど情報を読みこなし、自分の発信に生かすような読みの指導をもっと充実させる必要を感じた。資料が少ないこともあるが、多くの生徒は、2、3冊の本や、インターネットの情報をそのまま鵜呑みにしてそれを発表しているものが多い。今後は、

1つのテーマに関してたくさんの情報を読ませ、その中から自分が適切だと思う情報を選び出す指導、他の生徒の読みとりを聞きながら、自分の読みとりとどこが違うか、どちらが適切なのかを判断させるような指導、いくつかの情報をつなぎあわせ、自分の考えも加味しながら発信できるような指導を国語科の授業の中でしていく必要がある。

②課題解決学習に取り組むためには、テーマについての授業者の深い知識と、周到的な資料の準備が何より大切であることを痛感した。課題解決学習においては授業者の力量がものを言う。課題についていかに多角的な、豊かな知識を持っているか、鋭い視点で課題を切り取れる力を持っているかが学習の良否を決める。長年国語の教師として歩んできてそれなりに言葉に関する知識はもっているつもりであった。しかし、4クラスで50近いグループや個人について興味深い切り口でアドバイスするだけの「言葉」に関する知識がまだ不足していたことを感じた。資料もまだ足りなかった。この学習のために可能な限りの本、雑誌、新聞記事などは集めたつもりであったが、153名の生徒が使うとなると不足だった。課題解決学習に取り組む時には、年単位の計画を立て、授業者が研修を積む一方、学校の図書室や地域図書館に働きかけ、必要な資料を十分準備する必要がある。